

「コリント教会へのパウロの手紙」のポイント

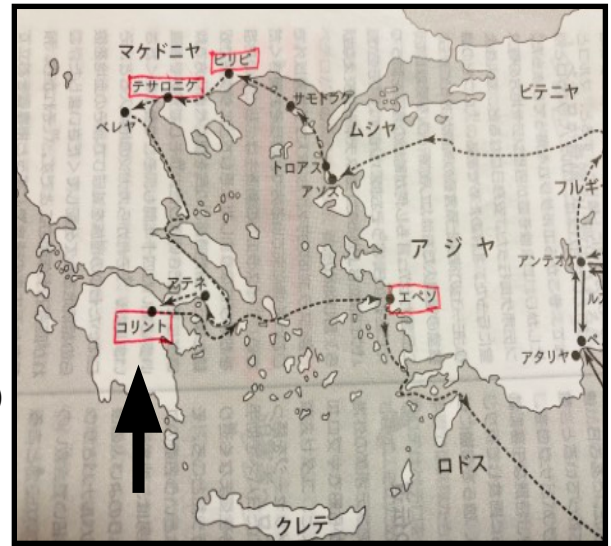
1 コリント教会への手紙のアウトライン

A：教会の問題についての対処

- (1)教会の分裂について(1章10節～4章21節)
- (2)教会の無秩序な状態について(5章1節～6章20節)

B：教会の質問に答える

- (1)クリスチャンの結婚に関する教え(7章1節～40節)
- (2)クリスチャンの自由に関する教え(8章1節～10章33節)
- (3)礼拝に関する教え(11章1節～14章40節)
- (4)復活に関する教え(15章1節～16章24節)



「コリント教会へのパウロの手紙」を読んでみよう

1 今日の聖書箇所：6章12節～20節

2 今日のポイント：肉体も主のもの

(1)前回までの復習

5章～6章までは教会内の無秩序な状態に対するパウロの警告が記録されました。教会の無秩序とはつまり教会員の無秩序を意味していました。パウロが6章前半で指摘したのは信者同士の争いを、一般社会の法廷に委ねている姿でした。当時の法廷は富裕層が自分の利益を守るために開かれていた裁判がほとんどであり、訴訟人であった富裕層は判事や陪審員にワイロを渡し、裁判が歪曲されるという出来事が度々起こっていました。パウロはそのような不公平・不平等・不正がはびこっている一般社会の裁判に訴え出る前に、クリスチャンに与えられている創造主の基準によって、まずは信者間の争いを収める必要を訴えました。

(2)コリント教会を間違った方向に導いた「自由」というスローガン

パウロは12節～14節で、コリント教会のクリスチャンが間違った価値観で信仰生活をしていた事を指摘しました。12節「私達にはクリスチャンには、完全な自由がある」と記録されています。当時のコリント教会のクリスチャンはこの「自由」という言葉を間違えて理解していました。イエス様を信じた霊さえ聖ければ、やがて滅びゆく肉体では何をしても良いと思っていたのです。またコリントという都市では売春が当時は許容されてた事も相まって、コリント教会の人々の生活は目に余るほどでした。コリント教会のクリスチャンは、主から与えられた肉体で自由奔放に生きていたようです。

パウロはそんなコリント教会のクリスチャンに向けて13節でこのように語りかけています。「しかし、この肉体は滅んでしまう。それまでこの世にあって、私達が主に仕えるために、体は必要であって自分を喜ばせる不品行のために、肉体が与えられているのではない」。クリスチャンは自分の快樂の為に創造主から与えられた肉体を用いてはならない。主に仕えるために肉体が与えられているとパウロは語りました。クリスチャンとして、肉体を用いてやるべき事とやってはいけない事がある事をしっかりと語りました。続けて14節では「やがて私たちの体も復活させてくださる」と語り、今と同じではな

いしても、体の復活があることを示しました。ゆえに、肉体を不品行のために使ってはならず、肉体で行う罪＝靈的な罪であるという正しい聖書理解をパウロは伝えました。

(3) イエス様と結ばれたのに・・・

続いてパウロは15節で、「私たちも、キリストの体の一部分である」と語りました。イエス様を信じた時から、私たちはイエス様と結ばれた存在(黙示録ではイエス様は花婿、私たちは花嫁と表現)であり3章では聖霊様が私たちに内住してくださるので、私たちクリスチャンは創造主と一つとなったのです。そのような存在であるクリスチャンが、肉体を自由奔放に扱い、売春婦と交わるなどして、イエス様と繋がっている肉体で罪を犯すなどやってはいけない事だとパウロは語っています。

19節以降では、私たちがどれほど大切な存在なのかについて語られています。1つ目は、創造主の聖霊様が住んでおられる所であるということ、2つ目は、キリストが尊い血の代価を払って買い取ってくださった者である事です。「創造主によって買い取って下さった」という表現からも分かるように、クリスチャンの所有権は創造主にあるのです。ゆえに、この肉体を通して、創造主の栄光を現す為に使いなさいとパウロは語ったのです。

〈子供に教えない”キリスト教的 性教育”〉

なぜ婚前性関係や婚外性関係はいけないのでしょうか。「聖書が教えているから！」だけでは、子供達は納得しません。創造主が喜ばれない！と言っても、子供達は目の前の誘惑や社会的な風土に流されてしまいがちです。15年前の調査ではクリスチャンホームの子供でも15～20%は結婚前に関係を持った事があるとの統計が出されました(日本)。

少し靈的な観点から考えてみましょう。靈的には「Soul Tie」という考え方があります。今日の本文で「売春婦と交われば売春婦と一体になってしまう」と語られているように、性関係はただの肉体の関係や一時的な関係に終わらず、魂・心を繋ぐ関係になってきます。その人と魂や心で繋がってしまうという事です。実際に、婚前に異性と関係を持った女性が、結婚後、夫と夫婦の営みを行う際に、いつも結婚前に関係を持った男性の事がフラッシュバックのように思い出されてしまい、本当の喜びや夫婦の一体を感じる事ができずにノイローゼになってしまった例もあります。

性的な関係は夫婦の中で許された関係です。それを越えて行う時、一時的な快楽は満足させられても、心や靈的な部分に消すことのできない傷や衝撃を残すこととなります。またSou Tieのように一生私たちの記憶の中に消すことのできない繋がりを残すこととなります(上記の方は、心から創造主に悔い改めをした後、フラッシュバックから解放されました) 創造主が許された夫婦だからこそ味わうことができる大切な関係を、創造主が私たちにプレゼントして下さいました。

3 分かち合ってみましょう

当時のコリント教会の人々は、自分の都合の良いように聖書の言葉を解釈して生きていました。この世の慣習にどっぷりと浸かり、快楽を満たしている自分達の裏付けを聖書から探そうとしていたのです。肉体を不品行の罪に使っていたこともそうでした。

現代、不品行な行いに加えて、聖書に具体的に記録されていなくても私たちの肉体を主の御用の為に使うのに害を及ぼすものがあります。タバコや麻薬、アルコール中毒などです。どうすれば、私たちの体を主の御用の為に用いる事ができるのかを考えながら、体を整えることも主の栄光の為になるのです。

そんな意味で私たちの肉体を整えるために、どのような事ができるでしょうか。